

文部科学省研究開発学校指定(平成 27 年度 – 平成 31 年度)

未来を創造する学びの追求

教科の本質に迫る教科学習の在り方

平成 31 年度(令和元年度)
研究発表会のご案内
【第 2 次】



ごあいさつ

新しい元号は「令和」となりました。平成の時代に私たちが開発した新領域「創造表現活動」も 4 年間の研究のまとめを終え、また新しい門出を迎えることになりました。本研究発表会のテーマは「各教科の本質に迫る教科学習の在り方」の追求です。

新元号「令和」の典拠は「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」という万葉集の文章にあります。大化から平成までの 1 2 0 0 年の元号の典拠はすべて中国古典にありましたが、今回は初めて日本最古の歌集である万葉集からとられました。今回の日本政府による元号採用のプロセスでは、厳かに元号を決めてきたこれまでの伝統を踏まえつつも、日本の将来を展望し、この「令和」という元号が決められました。同様に今回の私たちの「各教科の本質」についての提案は、四年間の新領域の開発の研究の歴史の検討の中から生まれてきた課題です。令和元年の研究、皆様の忌憚のないご意見を賜りたく存じます。

香川大学教育学部附属高松中学校
校長 佐藤 明宏

日時 **令和元年 6 月 14 日 (金) 9:00~16:40**

場所 **香川大学教育学部附属高松中学校**

〒761-8082 香川県高松市鹿角町 394 番地 TEL087-886-2121 FAX087-886-2124

主催 香川大学教育学部附属高松中学校

後援 香川県教育委員会 香川県中学校長会 香川県中学校教育研究会
高松市教育委員会 高松地区中学校長会 香川県中学校教育研究会高松支部

日程

8:30 9:00 9:20 9:40 9:55 10:45 11:00 11:50 12:50 13:40 13:55 14:55 15:10 16:30 16:40

受付	開 会 行 事	全 体 提 案	移 動	公 開 授 業 Ⅰ	移 動	創 造 表 現 活 動 紹 介 研 究 へ の 助 言	昼 食	公 開 授 業 Ⅱ	移 動	研 究 発 表 ・ 授 業 討 議	移 動	講 演	閉 会 行 事
----	------------------	------------------	--------	-----------------------	--------	--	--------	-----------------------	--------	---	--------	--------	------------------

全体提案

9:20~9:40

教科の本質に迫る教科学習の在り方

発表者 研究主任 増田 一仁



各教科の本質とは何でしょうか？

各教科の本質に迫る授業とは、どのような授業なのでしょう？

本校は、平成 27 年度より文部科学省研究開発学校指定を受けており、「コミュニケーション能力」「創造的思考力」を育成するための新領域「創造表現活動」を設置し、表現に関する教育の充実をめざした教育課程の研究開発に取り組んできました。また、新領域の設立とともに、常に教科学習の在り方を問い直し続けてきました。研究開発 4 年間の取組から分かってきた教科学習の在り方を、各教科の授業や生徒たちの姿を通して提案いたします。

公開授業Ⅰ

9:55~10:45

教 科	単 元 名 授 業 説 明	授 業 者 (学年・組)
国 語	言葉を広げよう『『走れメロス』がもつ価値とは何か』 言葉の魅力とは？文学の価値とは？シラー作「人質」の文章表現との比較を通して、太宰治が意図した仕掛けを捉える。言葉を手がかりに、作品がもつ価値を探ろうとする生徒の姿に注目。	額田 淳子 (2年2組)
社 会	現代社会と私たちの生活「地域の人口変動から迫る現代社会の特色と私たち」 高松市の中心部と南部の間の中間ベルト地帯が人口急増している。この疑問を解く展開で、空間スケールや時間軸を動かして、都市計画の線引きという目に見えない社会的境界の存在を発見させる。	池田 良 (3年1組)
社 会	世界の諸地域「世界と結び付く、経済成長著しいアジア州の未来」 東南アジアにおける生産拠点であったタイが、今日では消費市場として注視されている。未来の国際社会で活躍する生徒が、親日国家タイを通してアジアの経済成長を捉えます！	高橋 範久 (1年2組)
数 学	図形と相似「条件を変更しても点 P に戻ってくるのか」 二等辺三角形の 1 辺の中点 P から平行線をひき、他の辺との交点を Q、そこから平行線をひき交点を R、そこから…。これを繰り返すと点 P に戻るのか。条件を変更するとどうなるのかを考えます。	山下 裕平 (3年3組)
理 科	電流の性質とその利用「電流・電圧と抵抗の関係」 電熱線の抵抗を決定する条件を仮説を基に調べる。観察、実験で得られたデータを吟味し、またラポノートを用いて他者と意見交換をしながら分析・解釈し、科学的に説明する生徒の姿に注目。	萱野 大樹 (2年1組)
保健体育	傷害の防止「その時、私にできること」 「地震が来たら机の下に隠れる」この行動って本当に正しいのでしょうか？必ずしも、教室で起こるとは限らない自然災害に対して、命を守るためにその時、私にできることをみんなで考えます！	倉山 佳子 山本 早貴 (2年3組)
英 語	Writing & Speaking「外国の人に自分の住む町を紹介しよう」 外国の人に自分の住む町の魅力を英語で紹介するためには、どのような表現を使えばよいだろう。生徒同士のやり取りやモニタリング活動を通して、生徒が英語の表現を高め合っていく姿に注目。	佐藤 梨香 (1年1組)

創造表現活動紹介

11:00~11:50

新領域「創造表現活動」とは

発表者 研究副主任 小野 智史

これからの時代は、他者と協働するために必要なコミュニケーション能力、よりよい未来を切り拓くために必要な創造的思考力がより一層求められます。本校では、そのような資質・能力を育むための新領域「創造表現活動」を開発しました。創造表現活動とはどのような学習なのか？創造表現活動の概要や授業で見られた生徒の姿を紹介し、新領域の魅力やこれまでの成果と課題をお伝えします。今後のカリキュラムの在り方について一緒に考えてみませんか？

研究への助言 (11:20~11:50)

「創造表現活動」を設立した カリキュラムの可能性



磯田文雄先生

名古屋大学アジアサテライト
キャンパス学院長

※平成 27 年度~30 年度
本校運営指導委員

教科	単元名 授業説明	授業者 (学年・組)
国語	言葉を見つめよう「自分の感動を俳句で表現しよう」 十七音に込めた自分の感動は読者にどれだけ伝わるのか。オリジナルの句会を開き、作者と読者の交流を行う。俳句を通して、表現の多様性やそのおもしろさ、言葉の奥深さをより実感させる。	一田 幸子 (3年1組)
社会	歴史との対話「塚とは何か」 身近な地域に点在する正体不明の塚。小さな歴史学者として生徒は発掘や聞き取りをした結果を基に、塚の起源を探る。誰も明らかにしていない塚の謎に生徒はどこまで迫れるのか。	小野 智史 (1年1組)
数学	箱ひげ図とデータの活用「代表選手に誰を選べばよいのか」 監督となった生徒が、練習の成績を基に7人の中から代表選手2名を選び出す。複数の中から2名を選び出すためには、どのようにすればよいのか？既習を活用して解決を目指す生徒の姿に注目。	太田 隆志 (2年3組)
理科	植物のくらしとなかま～植物が生命を維持する仕組み～ 植物の生命を維持する仕組みをラボノートを用いて科学的に探究する。植物の光合成量は呼吸量よりも本当に多いのか？生徒の仮説は、立証されるのか？科学的な探究を目指す生徒の姿に注目。	赤木 隆宏 (1年3組)
音楽	創作「音符や休符の特徴を捉え、表現しよう」 音符や休符の特徴を捉え動機のリズムを創作します。動機のリズムを基に、音のつながり方、反復、変化、対照などの技法を駆使しながら、自分の想いを込めた旋律作りに挑戦する生徒の姿に注目。	小澤 聡 (2年1組)
美術	土の器～縄文茶碗プロジェクト～ 「縄文時代」にはあるはずのない「茶碗」を「現代人」がつくったなら？！いにしえの美を学び、自分の暮らしのエッセンスを織り交ぜながら、新しい美を創造しようとする生徒の姿に注目。	中川 佳洋 (1年2組)
保健体育	球技「ゴール型(バスケットボール)」～相手守備を“突破”してゴール下を制す！～ ゴール下の空間に飛び込む生徒、そこへパスをねらう生徒…。試行錯誤しながらいかにして相手守備を“突破”するか。一人一人が意見を出しながら、よりよい動きを追求していく生徒の姿に注目。	増田 一仁 (2年2組)
技術・家庭(技術)	情報「計測・制御に関するプログラミング」～被災時の問題解決～ 昨夏、近県を襲った豪雨災害。危険と隣り合わせの人命救助。そんな時にロボットが活躍してくれれば。センサを駆使して自動走行するロボットのプログラミングを行う生徒の姿に注目。	有友 誠 (3年3組)
技術・家庭(家庭)	「幼児の生活と家族」～幼児とのよりよい関わり方とは～ あなたなら3歳児にどんな絵本を読む？幼児にとって身近な絵本を読み解き、解決に向けた鍵となる考え方を探る。それを基に、幼児とのよりよい関わり方を考え工夫しようとする生徒の姿に注目。	福家亜希子 (3年3組)
英語	「なりきりリテリング」で物語を再構成しよう！ インフォメーションギャップの壁を越え、制限時間内に物語を伝えることができるのか。主人公になりきり、自分の言葉でリテリングします。物語の再構成に挑戦する生徒の姿に注目。	三野孝一郎 (3年2組)

各教科の本質に迫る生徒の姿とは？

教科	発表者	司会者(中学校) 記録者(中学校)	研究協力者(中学校)	指導助言者 (香川大学)	指導助言者 (教育委員会関係)
国語	額田 淳子 一田 幸子	田村 恭子(附属坂出) 木村 香織(附属坂出)	藤原真美子(屋 島) 赤松郁実(太 田)	山本 茂喜	土岐 浩司 (香川県教育委員会事務局義務教育課)
社会	池田 良 小野 智史 高橋 範久	大和田 俊(附属坂出) 大西正芳(附属坂出)	宮脇隆文(宇多津) 牧本剛典(高松北) 宮武昌代(古高松)	伊藤 裕康	三野 健 (香川県教育委員会事務局義務教育課)
数学	太田 隆志 山下 裕平	渡辺宏司(附属坂出) 山田真也(附属坂出)	古味英之(庵 治) 峯川真武(協 和)	松島 充	小山 圭 (香川県教育委員会事務局義務教育課)
理科	赤木 隆宏 萱野 大樹	鷲辺章宏(附属坂出) 山下慎平(附属坂出)	氏部崇之(香川一) 久武 滋(長 尾)	笠 潤平	若林 教裕 (香川県教育委員会事務局義務教育課)
音楽	小澤 聡	堀田真央(附属坂出) 井上智司(屋 島)	新田香織(太 田)	岡田 知也	藤原 由宜 (香川県教育センター教職員研修課)
美術	中川 佳洋	渡邊洋往(附属坂出) 翠さやか(香 東)	金丸高士(勝 賀)	古草 敦史	高木 愛 (香川県教育センター教職員研修課)
保健体育	増田 一仁 倉山 佳子	石川敦子(附属坂出) 徳永貴仁(附属坂出)	谷口公庸(桜 町) 末角駿之介(協 和) 谷 華(三 木) 二神紗季(一 宮)	米村 耕平	三宅 健司 (香川県教育委員会事務局保健体育課)
技術・家庭(技術)	有友 誠	渡邊広規(附属坂出)	白井和紀(高松北) 富山瑛二(引 田)	宮崎 英一	國木 良輝 (坂出市教育委員会学校教育課)
技術・家庭(家庭)	福家亜希子	池下 香(附属坂出)	菊池裕子(鶴 尾)	時岡 晴美	芳我 清加 (香川県教育センター教職員研修課)
英語	三野孝一郎 佐藤 梨香	伊賀梨恵(附属坂出) 真鍋容子(附属坂出)	山下修平(長 尾) 小柳昌弘(勝 賀)	中住 幸治	坂本 幸治 (香川県教育委員会事務局義務教育課)

※養護部会の研究発表はありません。



演題

教科の本質に迫る授業づくりのあり方

京都大学大学院教育学研究科 石井 英真 先生

プロフィール

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。日本学術振興会特別研究員（PD）、京都大学大学院教育学研究科助教、神戸松蔭女子学院大学人間科学部専任講師を経て、2012年より京都大学大学院教育学研究科准教授。専攻は教育方法学（学力論）。

主な著書に『現代アメリカにおける学力形成論の展開－スタンダードに基づくカリキュラムの設計－』（単著、東信堂）、『今求められる学力と学びとは－コンピテンシー・ベースの光と影－』（単著、日本標準）、『中教審「答申」を読み解く－新学習指導要領を使いこなし、質の高い授業を創造するために－』（単著、日本標準）、『授業改善 8つのアクション－学び合えるチームが最高の授業をつくる！』（編著、東洋館出版社）などがある。

本校へのアクセス

- ことでんバス
鹿角行き、香川中央高校行き「鹿角」下車 南へ およそ 200m
- ことでん（琴平線）
太田駅下車 西へ およそ 1500m
一宮駅下車 北へ およそ 2000m
- タクシー
JR 高松駅より およそ 20分
高松空港より およそ 20分
- 自家用車
高松中央インター、高松西インターより およそ 15分
本校北門より入校し、運動場に駐車
- 飛行機
高松空港よりリムジンバス「香大附属中前」下車
※JR 高松駅方面からは下車不可



参加費・申込方法について

- 参加費 **無料**
- 申込方法
別紙申込用紙にご記入の上、FAX または本校 HP、メールにて、
令和元年 6月 11日（火）までにお申込みください。
(当日参加も可能です)

FAX 087-886-2124

URL

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~takachu>

Email takachu@ed.kagawa-u.ac.jp

